

北海道「サステナブルな食品輸送の実現へ」議事要旨

(開催要領)

1. 開催日時：令和2年11月30日(月)15:00~17:00
2. 場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 札幌大通
3. 登壇者：
農林水産省 大臣官房輸出促進審議官（兼食料産業局）池山成俊
農林水産省 食料産業局食品流通課 課長 武田裕紀
ホクレン農業協同組合連合会 代表理事常務 今成貴人
ホクレン農業協同組合連合会 物流部 物流一課 課長 鎌田隆行
きたみらい農業協同組合 販売企画部 部長 中谷幸雄
JA ぶらの 販売部長 東藤学
士幌町農業協同組合 農工部 部長 久保武美
北海商科大学 教授 相浦宣徳
東京青果 経営戦略室課長 中村岩生
札幌みらい中央青果 常務取締役 菊地一弘

(プログラム)

1. 講演① 「食品流通合理化の必要性と対応について」池山成俊
2. 講演② 「北海道産農畜産物の抱える物流課題と今後の対応について」今成貴人
3. パネルディスカッション「パレット一貫管理体制の構築の推進に向けて」
ファシリテーター 武田裕紀
パネリスト 鎌田隆行／中谷幸雄／東藤学／久保武美／相浦宣徳／
中村岩生／菊地一弘
4. 閉会

* 敬称略・順不同

1. 講演① 「食品流通合理化の必要性と対応について」

食品流通の現場では、人手不足や新型コロナウイルス感染防止への対応など、さまざまな課題を抱えており、食料の安定供給を確保するためにもサステナブルな食品流通体制の構築が求められています。

今回のシンポジウムでは、食品流通の合理化を進める上で導入不可欠なパレット化について、先進地である北海道における産地主導のパレット一貫管理体制の構築を素材として、普遍的な課題や有効な手段を整理し、全国へ普及されることを期待しています。

2. 講演②「北海道産農畜産物の抱える物流課題と今後の対応について」

北海道の農畜産物について、農業総産出額ベースでは直近の数字で全国の農業総産出額 9 兆 3000 億円。このうち北海道は 1 兆 3000 億円を占めています。現状、ホクレンの貨物のうち 32%を電車で運んでいます。2030 年までに新幹線が札幌まで開通すると、貨物を電車輸送できない可能性が出てきています。

大量の農作物を輸送するために最近、取り組んでいるのが一貫パレチゼーション輸送です。全国的なパレチゼーション輸送の増大により、加工食品業での仕分け作業人員不足などからパレットの需要が高まっています。

3. パネルディスカッション

①中谷

JA きたみらいでは平成 27 年から一貫パレチゼーション輸送を本格的に運用。パレット化が必要とされる段ボール品、23 トンのうち 4 万トンを導入しました。導入可能なのはトラック輸送のみです。理由は基準緩和車両を利用した増トントラックの導入もあり、現行の積載数量を維持した状態で産地のコスト負担なく、パレット輸送の導入が図られています。

一方電車輸送については、利用率が 3 分の 2 と高く、欠かせない輸送手段ですが、パレット導入によって積載数量の減少が必要となれば、コストが上がってしまうので、現状の積載数量を維持できるように関係者の皆様にはご検討やご協力をお願いしたいと考えています。

②東藤

JA ふうらでは、収穫された野菜の 85%にあたる 11 万トンが本州に出荷され、そのうち 60%にあたる 6 万トンが JR 貨物のコンテナによって運ばれています。一貫パレチゼーションは平成 30 年から試験的に導入しており、実績としては 2020 年で 3 万 6000 トン、約 40%をパレット輸送に切り替えています。ただし莫大な費用がかかること、現在レンタルパレットの回収範囲内の都合で一部のユーザーが対象となっていますが、さらなる拡充のために農産物パレット推進協議会での協議に期待しています。

③久保

JA 士幌町では生食加工用馬鈴薯で年間 17 万トン、澁原馬鈴薯 8 万トン、合計で年間 25 万トンの馬鈴薯を扱っています。パレットの種類は国際基準、絶対的流通量の多い 11 パレットが基本。今、急速に木製からプラスチック化したパレットに転換が図られようとしています。プラスチック化に向けていろいろと改善をしていかなければならないと思っています。ちなみに私たちもレンタルパレットを多く使用させていただいておりますが、情報共有がうまくなされず回収率が上がっていません。

レンタルパレットは 11 型で、段ボールの寸法をしっかりとパレットに合わせる。また移動情報を確保できるように関係各所にご協力をいただきたいと考えております。また政策的

な課題としては、契約という概念を持ち込み、みんなが意識を持って管理し、共有できる恩恵をあずかれるような仕組みを作っていただきたいと考えております。そこは民間の力だけでは難しいので国のお力もいただきながら早急に形づくりをしていただきたいと考えております。

④菊地

札幌中央卸売市場では、全国的にも珍しい縦 1.9 メートル、横 2 メートルの大型木パレットを 40 年以上も使用していますが、昨年度から 3 ヶ年計画を作成し、T11 型パレットへ転換を図っています。T11 型パレットを約 2 万 5,000 枚、協議会で用意して、それを使用し進めていきます。

⑤中村

農産物パレット推進協議会では、おととしと去年で併せて 14 産地で約 3 万枚のパレット輸送実証試験を実施。統一規格のパレット、T11 型のプラスチックパレットを循環利用することで、流通過程でできるだけ RFID などの固体管理をしながら、みんなで一貫パレチゼーションを目指していく取り組みを始めております。クランプ型フォークリフトや荷受予約システム EPARK の導入などによる物流改革を進め、産地の方々をお待たせせず、お客さんにもどんどん引き取ってもらえるような仕組みを大田市場から変えていきたいです。

⑥鎌田

ホクレンでは取り扱っている青果物輸送のうちパレット化可能な約 80 万トンの約 3 割程度まで一貫パレチゼーション化が進んでいます。一方、運用に関する課題も見えてきました。私どもは卸売市場でのパレットの回収体制構築に向けた取り組みとして、青果市場と貨物駅が近接している点に着目。現在検討しているスキームでは、市場で配送が終わった後、市場にあるレンタルパレットを回収してくるというものです。利点としては、まずほぼ毎日のように配達があるため、こまめな回収が可能であるということ。回収頻度が高まることによって、パレットの保管スペースの少ない市場での、滞留パレットの解消が期待できる。青果物市場でのパレットの管理の労力軽減を目指しています。

⑦相浦

パレットを介して、食品流通の合理化を図るという議論は、単なる産地からの出荷や市場での荷受けの話ではなく、末に広がるサプライチェーンの入り口・通り道の整備に関する議論に他なりません。北海道の先進地域の事例に基づくと、①「縦の連携」によって個々のサプライチェーンをつなぎつつ、パレット化可能な貨物・産地・市場・ユーザーを拡大し、②「横の連携」によってパレット輸送を消費側、産地側、物流側にとってイレギュラーでない輸送とし、③「増加したパレット流動量をベースに、パレットの流れの合理化・効率化を図る、これがパレット化の推進に向けた大きな

フレームになると思います。北海道の先進地域は、「縦の連携」から「横の連携」へ取りかかっているところですが、全国の全ての産地・消費地を取り残さないためにもパレット化を推進し、パレット輸送をごくごく一般的な輸送にすることが必要です。

4. 閉会

物流の問題については標準化といったことにも、これから取り組んでいかなければならないと考えております。農林水産省も関係各所と協調しながら、食品流通の持続性を確保していきたいと考えております。

以上